

第3学年 英語科学習指導案（習熟度別少人数指導）

日 時：平成17年11月1日（月）5校時

学 級：3年6組（男子18名 女子19名 計38名）

場 所：基礎（ステップ）コース（北校舎2階少人数教室）

発展（チャレンジ）コース（3年6組教室）

指導者：教諭 菊池 昌彦 ALT マユール プレムジ（ステップコース22名）

教諭 伊藤 千寿 （チャレンジコース16名）

1 単元名 Unit5 Video Games: For Or Against?

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、指導要領「英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで聴き手の意向などを理解できるようにさせる」「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにさせる」にもとづき、「物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読みとること」「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」を主なねらいとしている。

内容はテレビゲームを題材にしているので、多くの生徒たちが興味を持つことができると思う。テレビゲームの功罪を話題にしているので、本文の内容理解からテレビゲームの問題点を考えさせるようにさせたい。そのためには生徒が本文の内容を読みとり、テレビゲームの暴力的な場面に関して、問題点を認識することが必要と考える。その上で自分の考えを書かせるようにさせたい。

言語材料としては、現在分詞や過去分詞の後置修飾が出てくる。その文の構造を理解させるためには、日本語の表現と比較をすることが有効と考える。例えば「日本製のカメラ」は a camera made in Japan となり、修飾語、被修飾語の順が反対になるということを理解させたい。また、間接疑問文については、指導要領に「理解にとどめる」とあるが、基礎コースについては、簡単な表現についてある程度は言えるようにさせたい。発展コースについては、実際の会話の中で使えるようにさせたい。

(2) 生徒の実態

基礎コース

英語に対して苦手意識を持つ生徒も多いが、教師の発問に対し真剣に考えたり、音読練習に意欲的に取り組む生徒もいる。

授業では、課題への取り組みに対する評価やはげましをし、苦手意識を持っている生徒が少しでも意欲を持てるように留意してきた。

また今年度重点としている音読指導では、各自が目標を設定し、その目標に向けて意欲的に取り組む姿が見られる。「自分の今の音読のレベルは」というアンケートの結果では、22人中18人が「カナをふらなくても読める」と答えている。日本語を見て英語を言う、というレベルに挑戦している生徒もあり、目標と成果を明確にした音読練習での成果が見られたと考えられる。

しかしペアワークがうまくできない生徒もいて、音読練習を生かしたコミュニケーション活動までは十分にできていないのが現状であり、今後の課題である。

発展コース

発展クラスには、英語への意欲が高い生徒が集まっている。音読練習では3分の2の生徒が暗唱できるレベルにまで到達する。また、対話練習やスキット作りでも、知っている表現を積極的に使い意欲的に活動している。授業では、このような生徒が十分に手応えを感じ、充実感を得られるような活動を展開して行きたい。

(3年6組音読レベルの推移：アンケートより 数字はパーセント)

レベル	内容	4月	7月
1	英文全体にカタカナ	14	6
2	英文の難しい単語にだけカタカナ	22	6
3	英文だけで読むことができる	53	48
4	日本語を見て英文を読むことができる	6	15
5	暗唱で言うことができる	6	24

(3) 指導観 (基礎コース)

まず評価やほげましを授業の中で意識し、行っていきたい。また少人数の利点を生かし、一人一人が取り組んだ成果もできるだけ確認、評価するようにしたい。

言語活動としては、基礎クラスは教科書の音読ができることを基礎、基本ととらえているので、最低カナをふらなくても読めるように取り組ませたい。また指導要領の3学年の目標には「初歩的な英語の文章を用いて、自分の考えなどを話すことができるようにする～(後半省略)」とあるので、音読したものを応用し自分が考えたことを1文でも表現できるようにさせたい。

(発展コース)

発展クラスの音読指導では、どの生徒でも日本語を見ながら教科書の英文を言えるようにさせし、さらに暗唱ができるまで取り組ませたい。本時では、間接疑問文を用いた様々な英文がどのような場面で使えるかを考えさせ、教科書のダイアログを参考にしながら実際にスキットを作らせ、音読指導を生かした発表をさせたい。

3 単元の指導目標と評価計画

(1) 単元の目標

- ・後置修飾や間接疑問文の入った表現を理解し、簡単な表現ができる。
- ・本文の内容を理解し、テレビゲームの功罪について自分の意見を持つことができる。

	コミュニケーションへの関心, 意欲, 態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識、理解
聞くこと	・相手を見ながら話を聞こうとしている。		・まとまった文の内容を聞き取ることができる。 ・相手の発話の意図を理解することができる。	
話すこと	・相手を見ながら話そうとしている。	・話したいことを相手を見ながら伝えることができる。		後置修飾の文や間接疑問文を正しい語順で言うことができる
読むこと	・目標を設定し、それを達成しようと音読している。	・相手に伝わるように音読することができる。	・書かれた内容を読みとることができる。	
書くこと	・教科書に出てきた表現を応用した表現を書こうとしている。	・伝えたいことが読み手に伝わるように書くことができる。		後置修飾の文や間接疑問文を正しい語順で書くことができる

4 本時の学習

(1)研究主題との関わり（基礎コース）

- ア 基礎、基本の重点：間接疑問文を用いた表現をすることができる。
- イ 課題解決を図るための指導過程の工夫：
会話例を全体で考えさせ、発音練習をした後でペアワークを行う。紙板書を活用する。
- ウ 評価を生かした指導の工夫：会話ペア全部を2人の教師で聞いてまわり、できているかどうか確認、評価をする。
- エ 定着を図る工夫：基本文の書取りを行う。

(2)展開

	学習課程	学習内容、学習活動	指導上の留意点(JET,ALT)	評価
導入 10分	Warm-up	1 基本 Q and A	声が出なければ繰り返させる。(JET) 個々に質問する。(JET,ALT)	声を出して読んでいるか 表現の能力 観察
	前時の復習	2 教科書 p55 を音読する。	声が出なければ繰り返させる。(JET) リピート/一斉読み/ マークと母のグループ読み (JET)	
	課題の設定	3 学習課題を確認する。		
間接疑問文が入った会話文を作り、会話ができるようになる				
展開 30分	課題の追究 ・会話文の音読	4 紙板書をもとに、空欄に入る言葉を考える。	紙板書を活用する。(JET)	声を出して読んでいるか 表現の能力 観察
		5 紙板書を見て、音読練習をする。	感情を込めて読むようにさせる。JET と ALT の会話例を示す。 文を見てリピート(ALT) 見ないでリピート(ALT) 日本語 英語(JET)	
	課題の解決 ・言語活動	6 ワークシートに英語を書き、それをもとに会話練習をする。	ワークシートを見なくもできるように指示。評価の観点も指示。(JET) 声の大きさ/アイコンタクト/感情を込めているか	適切な声の大きさで、相手に伝わるように話しているか 表現の能力 観察
		7 ペアで会話を発表する。	全部のペアの会話を聞く。(JET,ALT)チェックが終わったペアも練習を続けるよう指示。	意欲的に取り組んでいるか 関心、意欲、態度 観察
		8 2, 3組が発表する。	評価の観点を生徒に指示。(JET)聞いていた生徒に評価させる。	
終末 10	本時のまとめ	9 会話文に出てきたいいくつかの表現を書く。自己評価もする。	ワークシート(適語補充)をさせる。	ワークシートが書けたか。(言語についての知識、理解 自己採点、回収)

4. 本時の学習

(1) 研究主題との関わり (発展コース)

- ア. 基礎：基本の重点 : 間接疑問文を用いた表現をすることができる
- イ. 課題解決を図るための指導過程の工夫 : 間接疑問文を用いたスキット作りを行う
- ウ. 評価を生かした指導の工夫 : スキット作りの過程を評価し、発表時には相互評価を行う
- エ. 定着を図る工夫 : 暗唱で発表できるように練習する

(2) 展開

	学習過程	学習内容、学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Warm-up 課題の設定 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の本文を読む 2. 教師の質問に対して答える 	シャドウイングで行う 疑問詞を用いても Yes, No で答えるべき質問であることに気づかせる	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> どのような場面で間接疑問文が使えるだろうか。 </div>				
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> 課題の追究 ・ 基本文型の学習 課題の解決 ・ スキット作成 ・ スキット発表 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 直接疑問文と間接疑問文を比較する 4. 間接疑問文の発音練習をする 5. 間接疑問文を用いた文を作る 6. ペアで間接疑問文を用いたスキットを作る 7. ペアごとにスキットを発表する 	語順の違いに気づかせる 口頭で語順に慣れさせる いろいろな疑問詞について作らせる 教科書のダイアログを参考にさせる 声の大きさやアイコンタクトに気をつけさせる なるべく暗唱で言えるようにさせる お互いに聞きあって相互評価をさせる	正しい語順になっているか〈知識・理解〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ワークシート</div> 様々な場面状況を考えてスキット作りをしようとしているか〈関心・意欲・態度〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察</div> 適切な声の大きさに英語らしく発表しているか〈表現〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発表</div>
終末 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ ・ 自己評価 	<ol style="list-style-type: none"> 8. どんな場面で間接疑問文が使えたかを確認する 9. 発表についての自己評価を行う 	評価シートにまとめさせ、回収する	

学習内容

間接疑問文を用いたスキットを作り、発表する

評価場面

基本練習時（知識・理解） ワークシート

スキット作成過程（関心・意欲・態度） 観察

スキット発表時（表現） 発表

評価基準

間接疑問文を使える場面状況を考えてスキットを作り、適切な声の大きさと英語らしく発表することができる

A 評価

様々な場面状況を考えてスキット作りをしようとしている

アイコンタクトをとりながら適切な声の大きさと英語らしく発表している

B 評価

スキットを作ろうと取り組んでいる

適切な声の大きさと相手に伝わるように発表している

C. 努力を要する生徒への支援

場面設定の例をいくつか示して選ばせる

(2) 評価計画

	時	学習内容	観点 (領域)	評価場面 (方法)	評価規準	評価の具体規準		C、努力を要する 生徒への支援	
						A	B		
S O	2	現在分詞と過去分詞の後置修飾の形、意味、用法を理解し、それを用いた表現をする。	言語	教科書の内容確認や練習問題 (知識、理解) ワークシート	現在分詞及び過去分詞の後置修飾の形、意味、用法を理解できる。	ワークシートがほとんどできている。	ワークシートが半分以上できている。	教師の言う英語を繰り返させる。	
			表現 (話す、書く)	絵やデータを見て表現する場面 (表現) ワークシート	現在分詞及び過去分詞の後置修飾の表現ができる。	絵やデータをもとに現在分詞及び過去分詞の後置修飾の表現を、相手を見ながらはっきり言うことができる。	絵やデータをもとに現在分詞及び過去分詞の後置修飾の表現を言うことができる。		
D i a l o g	1	間接疑問文を使った英文を読んだり聞いたりしてその内容を理解する。	言語	教科書の内容確認や練習問題 (知識、理解) ワークシート	間接疑問文を使った英文を読んだり聞いたりしてその内容を理解できる。	ワークシートがほとんどできている。	ワークシートが半分以上できている。	個々への支援 (ワークシートのチェック)	
		各自の目標で教科書の音読をする。	表現 (読む)	音読の練習 (表現) 観察	相手に伝わるように音読することができる。	ロールプレイングをして相手を見ながらはっきりと音読している。	相手に伝わるように音読できる。		教師が読んで繰り返させる。
1 本 時 2/2		間接疑問文の入った表現を理解し、表現する。	表現 (話す)	音読、会話練習 (表現) (関心、意欲、態度) 観察	適切な声の大きさを相手に伝わるように会話することができる。(表現)	相手を見ながら、適切な声の大きさアイコンタクト、感情をこめることなどを意識して話している。	適切な声の大きさを、相手に伝わるように話している。	教師が読んで繰り返させる。	
			言語	ワークシート記入(知識、理解)	本時で学習した内容を理解して書ける。(知識、理解)	ワークシートがほとんどできている。	ワークシートが半分以上できている。		添削する。(基礎) 場面設定の例をいくつか示して選ばれる。(発展)
			言語	基本練習時 (知識、理解) 観察 スキット作成過程 (関心、意欲、態度) 観察					

			表現 (読)	スキット発表時 (表現)				
R C	2	テレビゲームについてのさまざまな意見について読みとる 相手に伝わるように音読することができる	理解 (読) 表現 (読)	教科書の内容理解(理解) ワークシート 音読の練習 (表現) 観察	本文を読んで、意見の要点を理解することができる。 相手に伝わるように本文の音読ができる。	本文を読んで、概要をQ & Aなどで答えることができる。 適切な声の大きさ、アイコンタクトなどに留意して相手に伝わるように音読している。	本文を読んで日本語で説明することができる。 相手に伝わるように音読できる。	個々への支援(ワークシートのチェック) 教師が読んで繰り返させる。